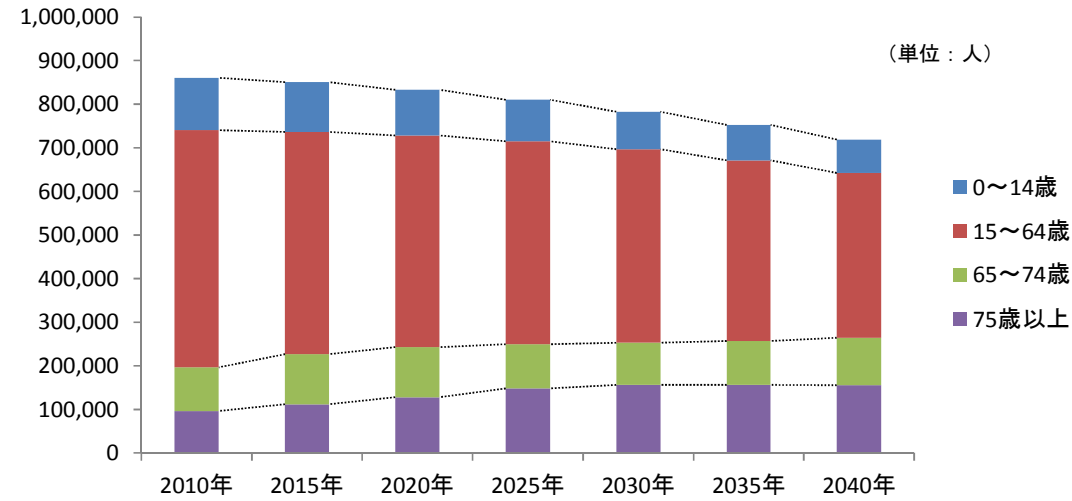


1 人口構造の変化の見通し

- ・ 2010年の人口は約861千人、2040年は約719千人と推計され、約142千人が減少する。
- ・ 65歳以上人口は2010年には196千人、2040年は約264千人と推計され、約68千人増加する



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
0～14歳	120,818	114,095	104,801	95,030	86,253	80,739	76,833
15～64歳	543,863	509,484	485,757	466,003	443,860	414,775	377,611
65～74歳	99,876	114,941	115,171	101,016	96,663	100,341	109,070
75歳以上	96,417	111,841	127,674	148,178	156,131	156,380	155,525
総数	860,973	850,361	833,403	810,227	782,907	752,235	719,039

2 構想区域の現状と課題

○医療提供体制・疾病構造・患者の受療動向

- ・ 圏域内には病院は38病院あり、そのうち一般病床・療養病床を有する病院は31病院である。
- ・ 一般病床・療養病床総数のうち、約65%は一般病床である。
- ・ 地域医療支援病院が6、救命救急センターが2、高度救命救急センターが1存在する。
- ・ 一般病床数が600を超える病院が4あり、圏域内に高度な医療を提供できる医療機関が多くある。
- ・ 平成26年在院患者調査によれば、住所地が圏域内の入院患者6,104人のうち、5,437人(89.1%)が圏域内の医療機関に入院している。主な流出先は県外(544人)、中東遠圏域(96人)である。一方、圏域内の医療機関の入院患者6,391人のうち5,437人(85.1%)が圏域内住民である。主な流入先は中東遠(597人)、県外(229人)である。

○基幹病院までのアクセス

- ・ 浜松市中心街は問題ないが、北部は交通手段に乏しく外来受診や患者搬送困難が生じる。
- ・ 湖西市と浜松市及び隣県の行き来はJR、国道1号線によるところが大きく、遮断されると代替手段に乏しい。
- ・ ドクターヘリは当圏域のみならず他圏域や県外との救急医療体制に大きく貢献している。

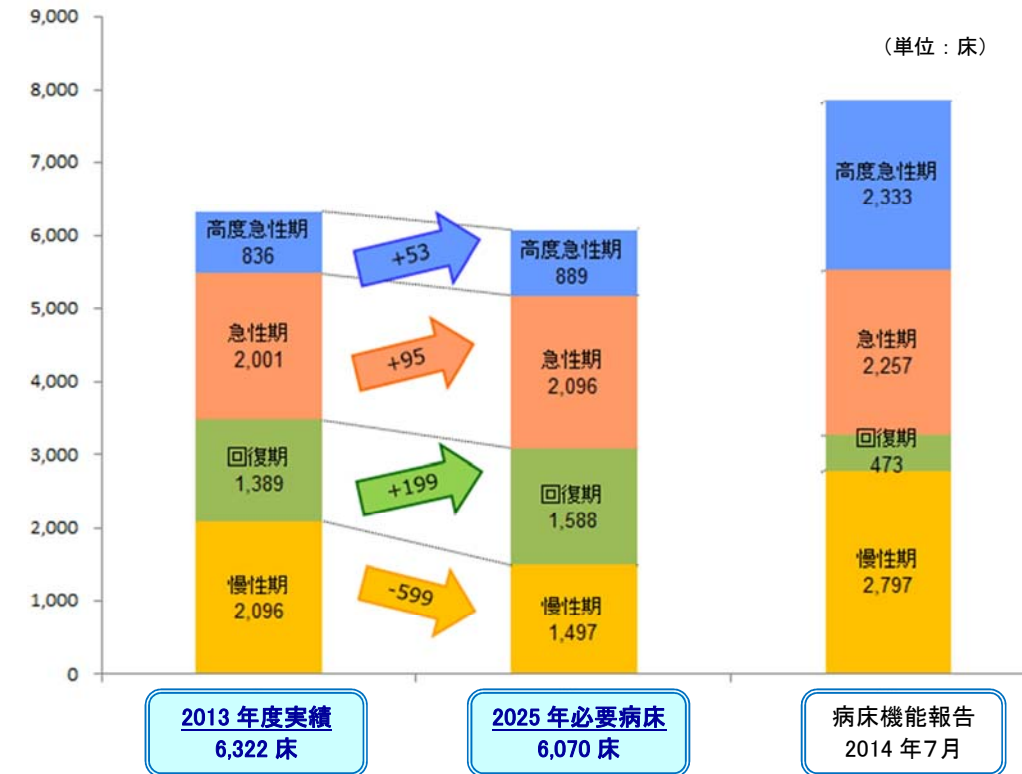
○平成26年度以降の状況変化と今後の見込

- ・ 平成27年3月に聖隷三方原病院が高度救命救急センターに指定された。

3 医療需要と2025年のあるべき医療提供体制

○2025年の必要病床数

- ・ 2025年の必要病床数は6,070床。2013年度実績から252床の転換等が必要になると推計される。
- ・ 高度急性期は53床、急性期は95床、回復期は199床の充実が、慢性期は599床の転換等が必要になると推計される。
- ・ 2025年の必要病床数のうち、高度急性期、急性期、回復期の小計は4,573床、慢性期は1,497床。



○2025年の在宅医療等の必要量

- ・ 2025年に向けて、在宅医療等の医療需要は3,463人、うち訪問診療分について1,210人増加すると推計される。
- ・ 2025年の在宅医療等必要量のうち、訪問診療分の内訳は約43%。

